

「予習」「授業」「復習」「問題練習」で「深い理解」を目指そう  
— 「自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ようにしよう! —

開倫塾

塾長 林明夫

学校や開倫塾で学ぶことは、すべて役に立ちます。役に立たいことは一つもありません。しかし、役には立つのですが、それは「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」つまり、「深い理解」が得られたときです。

Q：塾長は最近、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」こと、つまり「深い理解」を目指そうと、さかんにおっしゃっておられます。なぜですか

A：(1)学校や開倫塾で学ぶことは、すべて役に立ちます

(2)次の学期、次の学年、進学した中学校・高校ですべて役に立ちます。高校で学ぶ内容は、高校を卒業後進学する大学・短大・専門学校、専修学校ですべて役立ちます。学校を卒業後、社会に出て、「仕事」や「社会的活動」「日常生活」をする上ですべて役に立ちます。「よく生きる」ためにも役に立ちます。「一生」役に立ちます

(3)このように「学校や開倫塾」で学ぶ内容は、すべて「上級学校」や「社会」に出てからも、また、「よく生きる」ためにも役に立つ。「一生役に立つ」のですが、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)」

つまり、「深い理解」まで至っていないと「学んだこと」を用いることは難しい

○「学んだことを自分のことばでいえる」ことを「深い理解」といいます。一番よいのは学校や開倫塾で学んだことを「自分のことばでいえる(表現・説明できる)」つまり、「深い理解」を目指すことです



Q：では、どうすれば「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」「深い理解」が実現できるのですか。

A：学校や開倫塾で学ぶ内容について①「予習」②「授業」③「復習」④「定着」⑤「問題練習」の一つ一つをていねいに取り組むことが一番です

(1)ていねいに「予習」「何がわからないかをはっきりさせて授業に臨む」

(2)しっかり積極的に「授業」に臨む。大切なことはすべて「メモ」「ノートに取る」

(3)「予習」と「授業」が終わった範囲について「教科書」「テキスト」「問題集」「授業ノート」

をもう一度ていねいに学び直す。これが「復習」

○わからないことばは意味調べ

○わからない問題はなぜそのような解答になるかわかるまで考える。どうしてもわからなければ先生に質問

(4)「復習」して学んだ内容を「理解」したら、次はその内容を身に着ける。これを「定着」といいます

「定着」のためには①「音読練習(暗唱)」②「書き取り練習(暗写)」③「計算・問題練習」が絶大な効果をもたらします。この①～③の練習を「定着のための3大練習」と開倫塾では呼びます。「定着のための3大練習」は不可能を可能にすると開倫塾では考えます

(5)最後に「過去問」や「予習問題」などを用いた「問題練習」をする

○以上(1)～(5)をていねいに取り組むことで「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」つまり、「深い理解」が得られると考えます



**Q：最後に一言どうぞ。**

**A：**(1)この「深い理解」は、学校の勉強はもちろん、「仕事」や「社会活動」「日常生活でも役立ちます。よく生きる上でも役立ちます。「自己実現」「自分の夢や希望」を実現する上でも役立ちます

(2)このために「学校や開倫塾の教科書・テキスト」「授業ノート」「教材」「辞書」「地図帳」「歴史年表」などはすべて役立ちます

(3)学校を卒業するとき決して処分しないでくださいね。一生の「宝物」として大切に保存。折に触れて「学び直し」てくださいね



ではがんばって！

2025年3月5日(水)